

# 甲斐市立敷島中学校 自己評価書（前期）

平成25年 7月5日（金）作成

校長 新海 賢一

記述者 職名（教頭） 河野 良一

学校教育目標 「一人一人の個性を伸ばし、自ら学ぶ生徒の育成を図る」

- ・課題意識を持って「自ら学ぶ生徒」・・・・・・・・・・知
- ・豊かな感性と思いやりのある「心豊かな生徒」・・・・情
- ・何事にも全力をつくしてやり抜く「よく働く生徒」・・・意
- ・生命を尊重し、心身共に健康な「体を鍛える生徒」・・・体

学校経営方針 生徒一人一人の「生きる力の育成」へ向け

- ・学ぶ意欲を高める教育課程の編成
- ・個性を伸ばす教育の充実
- ・よりよい生き方を求める道德教育の実践
- ・人権の尊重や福祉、国際感覚に満ちた生徒の育成
- ・生涯学習社会にふさわしい地域に開かれた学校づくり

## 1 全体評価

質問項目は全部で46項目（オリジナル項目を含む）である。ほとんどの項目において最頻度がAまたはBであり（最頻度Aが30項目、Bが16項目）、比較的高い肯定率となっている。しかし、C、D評価の項目が若干あるなど更なる改善をしていく必要がある。

特に改善が必要な項目、継続が必要な項目を挙げてみると

### ①□学校教育目標・学校経営について

・PDC Aサイクルという言葉は浸透しており改善につながる場面がいくつか見られる。全ての教育活動がPDC Aの上に成り立ち、成果を上げていくという意識を今後も高めていきたい。また、職員の健康管理も含め、働きやすい職場づくりにも配慮していく必要がある。

### ② 学校運営について

・危機管理や情報セキュリティへの意識は年々高くなっておりこのまま継続していきたい。職員会議や校内研への関わり方については職員の意識を更に高めていかなければならない。

### ③ 学習指導について

・授業や指導方法の工夫改善については、校内研との兼ね合いのなかである程度の取組みはできている。しかし、家庭学習の指導を今後も継続していくことや、生徒や保護者の要望に応えるべく更なる努力をしていく必要がある。

### ④ 生徒指導について

・生き方教育（キャリア教育・進路指導等）については教育課程上改善されているが、教師の意識を更に高めていく必要がある。また、生徒理解を深め、課題を共有しながら生徒指導に当たってきたい。

### ⑤ 地域との連携について

・地域との連携・協力が重要であることは言うまでもない。地域の方々は学校に対して非常に協力的であり、この教育力を生かしていくことが必要である。

### ⑥ 学校の特色に関して

・学校の特色として行っている教育活動に対し、マンネリ化に陥らないよう常に新鮮な気持ちで生徒の実態に合わせた取組みをしなければならない。

<b>2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）</b>	
<b>I 学校教育目標に関して・学校経営について</b>	
達成状況	<p>◎学校教育目標や校長の経営方針に基づいた教育実践が全般的に行われている。</p> <p>○どの項目も割と高い肯定率を示しているが、次の項目には改善が必要とされる。</p> <p>△職員の健康管理や福利厚生に配慮した職場づくりをしていかなければならない。</p>
改善策	<p>・日々、多忙感を抱きながら仕事をしている教員は多い。授業や行事のことを考えると休みが取りにくい現状もある。健康で笑顔で生徒に接するためにも、皆で声を掛け合う、分担し合う、支え合うなどし、また退勤時間が遅くならないような雰囲気をつくっていく。</p>
<b>II 学校運営について</b>	
達成状況	<p>◎職務上の「報告・連絡・相談」、職員の相互理解、情報セキュリティ等についてはかなり高い肯定的評価である。</p> <p>○施設設備の安全点検や危機管理マニュアルの理解等は高まっている。</p> <p>△多くの教員は職員会議や校内研に積極的に関わっているが、そうでないと回答する教員が若干ながらいる。</p>
改善策	<p>・職員会議、校内研ともに事前に資料を配付し目を通してから会議に臨めるようにしている。両方とも学校運営の骨格に関わるものであるから、全員が高い意識を持つことができるよう指導していく。また、本校には会議室がないため、会議に集中しやすい物理的な環境も考えていかなければならない。</p>
<b>III 学習指導について（生徒用アンケート等も含めて）</b>	
達成状況	<p>○学習の基盤である民主的な学級づくりについては、肯定的回答が多い。</p> <p>△宿題や家庭学習の指導については継続して行っているが、本年度家庭学習の時間が昨年度より少なくなっているのが気になる。（生徒アンケートで、家で1時間以上勉強する生徒の割合が昨年度同時期 40.8%、本年度 32.1%、市全体 33.4%、宿題を忘れずにやってくる生徒が本校 83.9%、市全体 83.5%）</p> <p>△多くの教員が授業の工夫改善をしているが、わからないことがあったら教員に質問できる生徒を増やしていく必要がある。（生徒アンケートで、わからないところを先生に聞いている生徒が本校 55.2%、市全体 60.6%）</p>
改善策	<p>・宿題や家庭学習の指導は継続的に取り組んでいる事項である。しかし、教員の入れ替わりもあり、再度全員で確認していかなければならない。宿題の出し方についても工夫していく必要がある。</p> <p>・教員とすれば、生徒には質問にきてほしいと願っている。質問しやすい雰囲気をつくったり、時間を確保したりしながら生徒の質問、要望に応じていく。</p> <p>・各個人が教員評価の「教科指導」で具体的目標を掲げている。それらが達成できるようにしていく。</p> <p>・民主的な学級づくりについても、昨年からの取組みを継続し、QU検査の結果を活用し客観的な観点から学級づくりをすすめていく。</p> <p>・学力把握調査の結果を分析し、更なる基礎・基本の定着に努めていく。</p>

<b>IV 生徒指導について（生徒用アンケート等も含めて）</b>	
達成状況	<p>○学校長の基本方針（教師と生徒の人間関係の確立が第一、行事を通して生徒の心を鍛える等）を職員が理解し、全体的に高い肯定率となっている。</p> <p>○いじめ問題については、危機意識を持ち未然防止に努め、早期発見・早期解決のため学校をあげて取り組んでいる。</p> <p>△全職員が、生徒指導上の課題を共有した取組みをしていかなければならない。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長の基本方針を踏襲し、困ったことがあったら相談にのれる先生（本校生徒 40.4%，市全体 50.9%）の率を高めていきたい。</li> <li>・生徒指導部会、不登校対策委員会等を今以上に充実させ、職員会議での情報交換もわかりやすく具体策を盛り込んだものとしていく。</li> <li>・学校の決まりや約束事は多くの生徒が守れているが（守れている生徒が本校 92.9% 市全体 92.8%），守れていない一部の生徒にも粘り強く働きかけていきたい。</li> </ul>
<b>V 地域との連携について</b>	
達成状況	<p>○保護者や地域の方々は学校に非常に協力的である。PTA行事をはじめ各種活動も活発に行われており、肯定的意見が多い。</p> <p>△地域人材や施設を活用については、昨年同期より肯定率は高まっている。しかし、地域の教育力を更に活用していきたい。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の伝統行事や職場体験等を通して、地域の協力を得られるようになってきている。特に職場体験では協力事業所の約 8 割が学区内の事業所であった。今後もこのような連携をさせていただきながら、地域と結びついた学校を目指していきたい。</li> </ul>
<b>VI 学校の特色に関して</b>	
達成状況	<p>○授業参観日や学級懇談会などにおいて、保護者へ情報が伝わり、情報の共有を図ることに對して高い肯定率を得ている。</p> <p>○学校の特色となっている活動については割と高い肯定率だが、朝読書等その目的や趣旨を理解し生徒の実態に即して指導していきたい。</p>
<p><b>3 まとめ</b></p> <p>＜成 果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に見て本校の教育は、学校教育目標や校長の経営方針を踏まえて実践されているものと解することができる。また、教員の相互理解、職務上の「報告・連絡・相談」機能、PDCA サイクルや危機管理意識の高まりなどが見られる。今後も維持向上させていきたい。</li> <li>・学級づくりや学習指導については、一人一人の教員が一生懸命取り組んでいる。今後も生徒にとって居場所となる心安らぐ学級、わかる授業を根幹にして学校力を高めていきたい。</li> <li>・生徒指導については、人間関係の構築を基本に深い生徒理解に努めている。また、組織や会議を生かして情報を共有し、統一性のある指導をしていきたい。</li> </ul> <p>＜課 題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・我々職員が心身ともに健康な状態で教育活動に当たることはこの上なく重要である。そのためには職員間の協力体制が不可欠である。声を掛け合う、分担し合う、支え合うなどして、また多忙のなかにもリフレッシュしながら教育活動をすすめていきたい。</li> <li>・教員の本務たる学級づくりや授業の工夫改善については相当の努力をしている。しかし、それらが独りよがりになってはいけない。そのためにも職員会議や校内研に意識を持って主体的に臨まなければならない。若干ながら消極的な部分も見られるので、全員が積極的に関わられるようにしていきたい。</li> </ul>	